

Q: 不審者情報の共有について

A: 学校・警察・保護者が密に連携し、情報の共有と有効な指導に努める。



福塚 実議員

教育現場における子供たちの現状について

福塚 子供たちの深夜はいかいかや無断外泊など夜間に掛ける機会が増え、様々な事件等に巻き込まれる報道がされている。学校では現状を調査し、より安全な対策を考えているのか。

教育部長 教育委員会では、年度当初及び長期休業期間前に、各学校を通し児童・生徒に対し、深夜はいかいかや無断外泊等禁止の指導を行っている。また、文部科学省の連絡連携制度を受け、警察、学校、教育委員会が情報を提供・共有し合うなど連携を図っている。

福塚 不審者による事件が報道されているが、不審者情報の共有をどのようにして取り組んでいるのか。

教育部長 教育委員会では、2月に紀の川市で小学5年生男子殺害事件発生直後、校園長会に指示し、マメー

ルを保護者に発信。また、7月には香芝市女子小学生連れ去り事件が発生し、各学校に注意喚起の文書を送付し、学校・警察・保護者が連携し、情報の共有と有効な指導に努めている。

五條市の不法投棄の現状と残土処分について

福塚 不法投棄の現状と残土処分や民有地への不法投棄の対応について尋ねる。

産業環境部長 通報や来庁者による情報提供を受け回収を行っているが、広範囲に及ぶため、現在、不法投棄監視パトロールを週3回シルバー人材センターと派遣契約し回収等を行っている。また、市内自治連合会から地域環境推進員30名を委嘱し、不法投棄防止のための監視や啓発、警察とも連携し、悪質な不法投棄は、警察が捜査し検挙している。
都市整備部長 残土処分地は、河川等への土砂の流出

もあり、現地で事業者と地元自治会代表者が立ち会い、業者の責任で流出土砂の撤去作業と盛土の締め等の施工を行い、安全を確保するとされており、今後も河川管理者として監視を継続していきます。

五條市の未来像について

福塚 庁舎建て替えの経緯経過と考えを尋ねる。

市長公室長 昨年4月に五條市新庁舎整備研究委員会より、適地選定報告書の答申を受け、今年2月には奈良県とまちづくりに関する包括協定を締結し、旧五條高校跡地で奈良県南部の県の公共施設を併せた施設整備について協議をしている。今後は、市議会や奈良県をはじめ関係各方面と十分協議を行い、一日も早い着手を目指したい。

福塚 次に、市民会館・中央公民館の手狭な駐車場やホール内の閉塞な客席等の



(五條市役所本庁舎)

問題をどう考えているのか。
理事 市民会館は築44年、中央公民館は築38年経過しており、利便性の向上を図っているが、不便さも認識しており、全ての利用者にとって安全で快適な生活環境の整備を推進し、今後のあり方を検討し考えたい。
福塚 次に、(仮称)総合体育館の交通手段の整備について尋ねる。
都市整備部長 今後は利用者の増加も見込まれることから、利便性を図るためにも、関係課・機関とも協議し、公共交通機関の充実を図りたいと考えている。

Q: JR大和二見駅踏切の拡幅について

A: 通学路であることは認識している。県・JRと連携を取り、前向きな形の中で考えていきたい。宗部康寛議員



JR大和二見駅踏切の拡幅について

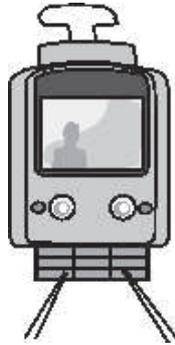
宗部 朝夕のラッシュ時には、踏切内で一時停車する場合があります。二輪車そして歩行者も立ち往生する事がある。混雑時に遮断機が降りる様な事があれば、安全な通学路が確保できない等から、地域住民から改善を求める声が強くなり寄せられている。児童・生徒通学路の安全確保のため、県道ではあるがこの問題の今後の対応を伺いたい。

教育部長 通学路の安全対策に関して、これまで二見地区自治連合会から大和二見駅西方踏切通学路の拡幅についての要望書も提出されておられ、教育委員会としては、道路管理者である奈良県に対し、児童・生徒の安全確保のため、必要な要望を行ってまいりたい。

宗部 この問題は、長年解決に至っていない。安全・安心な地域社会実現の為に

も、児童・生徒の通学路整備にお力添えをいただきたい。

市長 将来を担う子供たちが利用する通学路である事は十分認識している。奈良県・JRと連携を取り、前向きな形の中で考えていきたい。部分的な改修はできないか、総合的な考え方で、地元の方々の要望、子供たちの安心・安全を守るべく、考えてまいりたい。



旧五條高等学校南側市道について

宗部 旧五條高校跡地を、今後どう有効活用するのか、現在、新庁舎建設計画の候補地にも挙がっており、そして将来、南部振興のため、県の複合施設となるのか、いずれにしても、まず周辺の道路整備が不可欠である

と思う。旧岡中線から旧高校南側道路岡口6号線、本町6号線、これを直線で結ぶと旧消防署前の国道310号への接続が可能となり、利便性も良くなり、地域活性化が確実にとなると考えるが、今後の計画をお聞かせ願いたい。

都市整備部長 このルートについては、道路拡幅並びに改良等の要望や計画は今のところ無い。本ルートについては、当該地へのアクセスとして有効となる一つではあるが、市道岡中線と市道旧岡中線を結ぶ岡口3号線の改良拡幅事業が優先すべき最重要路線と考えている。

宗部 この新計画は大変重要な、費用対効果の高い計画であると思うので、早い基本計画策定に着手願いたい。市長の判断をお聞かせ願う。

市長 まず、岡口3号線、これをしない限り五條高校

跡地は有効活用できない。その道路網の整備をきちっとやるべく、五條高校跡地に對して有効利用ができるような体制を構築したい。

宗部 今後、京奈和道五條インターから降りて国道24号に出なくても、国道310号から五條高校跡地、そして五条駅周辺へ行ける重要な路線計画であると考えていただきたい。



【その他の質問】

1. JR大和二見駅周辺について
 - ①トイレの改修について
2. 防災対策の徹底について
 - ①ハザードマップについて(新町・二見地区の浸水エリアの明記について)
 - ②災害時の避難情報について
3. 五條市の観光行政について
 - ①魅力発信のPR活動について
 - ②外国人観光客の誘致活動について

Q：精神障害者の医療費自己負担分への助成の拡大について

A：前向きに検討し、平成28年度内の実施を目指している。

大谷龍雄議員



精神障害者の医療費自己負担分への助成の拡大について



大谷 平成25年3月6日に精神障害者の福祉医療を実現する奈良県会議の皆さんが五條市へ来られ、精神障害者保健福祉手帳1級と2級を対象とした医療費助成を要望され、以後数回来られている。この間、奈良県は平成25年度に精神障害者を対象にアンケート調査を行った結果、就労が困難で

無年金者も多く、6割以上が精神科以外の疾患を抱えており、その4割が経済的理由で受診を抑制していることなど厳しい状況が分かり、奈良県議会は、手帳1、2級を対象に平成26年10月から医療費助成を行う議案を可決し、奈良県下の全ての町村は平成26年10月から助成を実施しているのに、12市は今年の4月から1級のみ助成になっていく。この状況のもと、生駒市が来年度から2級まで助成を拡大すると発表している。五條市も他市にも働き掛け、来年4月から助成の拡大を実施すべきではないか。



あんしん福祉部長 本年4月から精神障害者保健福祉手帳1級保持者に対して、公費負担を開始したところである。

五條市での手帳1級所持者は8月末現在で28人、2級所持者は118人であり、この制度を2級まで拡大すると、月約100万円の費用が必要になると試算しており、年間医療費だけで約1,200万円が必要であると考えているが、精神障害者医療費助成事業補助金として、奈良県が2分の1を負担してくれることで五條市の持ち出しは、年間約600万円と予想される。この制度を拡大すると、就労することが難しい精神障害者の現状における経済的支援として重要なことであると認識している。

五條市としては、現在、必要な予算や実施体制について、前向きに検討し平成

28年度内の実施を目指している。



総務文教常任委員会

9月定例会で本委員会に五條市過疎地域自立促進計画の一部変更及び五條市一般会計補正予算の2議案が付託され、審議の結果、全員一致で可決されましたが、委員から平成27年度五條市一般会計補正予算(第3号)議定に対する附帯決議を付することに決しました。

委員会での質疑内容の一部を抜粋してお知らせします。

平成27年度五條市一般会計補正予算(第3号)議定について

委員 西吉野町平雄で民家を無償で借り上げる理由は。

答弁 地権者から地域の活性化になるのであれば無償で貸していただけ。

委員 この場所に決まった理由は。

答弁 この場所は、映画「萌の朱雀」のロケ地であることや限界集落的な地域であるため、魅力を感じていただき

の地域の活性化になれば、五條のいろいろな地域に住んでいただくモデルの一つとなるということでの選定をした。

委員 この家の貸出期間は。

答弁 長くても1箇月ほどと考えている。

委員 冬場の道路に必要な融雪剤等の費用は。

答弁 今後検討しなければならぬ。

委員 鳥獣対策費の特定財源のその他の財源内訳は。

答弁 今年の鳥獣被害防止の総予算額は57,788千円であり、県から49,119千円いただき、残りの8,669千円に対し、国・県が85パーセント、地元負担が15パーセントである。

委員 地域資源活用事業業務委託の内容は。

答弁 旧五新線にある3つのトンネルの今後の利活用について、地方創生の上乗せ交付金を活用して10月30日までに総合戦略を策定するため、専門性の高い詳細点検を専門家に業務委託するものである。

委員 養護老人ホーム花咲寮

の基本計画策定業務委託料の内訳は。

答弁 土木基本計画2,090千円、測量1,400千円、建築概略計画1,280千円、検討委員会運営支援4,550千円、報告書作成1,210千円の合計10,530千円に消費税を含めたものである。

委員 他の施設も老朽化して耐震がなく建て替えが必要であるが財政状況は。

答弁 今の行政サービス水準を維持していくには、公債費の支出の抑制が課題であり、毎年の新規発行額を抑えることが必要である。五條市は、平成32年までは大きな事業が重なっており財政的に抑えるのは難しいが、それ以降は過疎債や合併特例債に対して交付税措置があるため抑制することは可能と考えている。また、^{※1}実質公債費比率が25パーセントを超えると黄信号という状態になるが、五條市は、平成26年度は15.4パーセントである。この優位な起債により、ここ10年では数値がそう上がらないという見通しを立てている。また、補助金の活用も大事である。

委員会から提出された附帯決議

議第54号 平成27年度五條市一般会計補正予算(第3号)議定に対する附帯決議

平成27年度五條市一般会計補正予算(第3号)議定における、老人福祉施設費の基本計画策定業務委託料については、老朽化した花咲寮の建て替えのための必要な予算であるが、所管する厚生建設常任委員会におきまして、継続して現在も協議がされております。

今後、基本計画策定におきましても、五條市の財政状況等を踏まえ、入所者の利便性を考慮しながらできるだけ財政負担が少なくなるよう関係機関並びに議会とも様々な角度から協議を重ね、より快適な施設となりますよう事業を進めていくことを強く求める。

以上、決議する。

平成27年9月28日 五條市議会

委員 花咲寮の建て替えを県内産の木材を使用して、補助金を活用しては。

答弁 補助金をいただいて、残りを過疎債で充てるなど組合せが必要だと考える。

委員 木で建てることに対する考えは。

答弁 大変いいことだと思う。そのためにも基本設計に着手し、その中で様々な議論をして方向性を決めていかなければならない。

委員 しゅん工時期は。

答弁 できる限り平成32年度までにはやっていきたい。

委員 しつかりと計画を立てて運営してもらいたい。



※1 実質公債費比率 収入に対する負債(借金)返済の割合を示します